

# とっとり Now

鳥取県総合情報誌 vol.119

2018  
Autumn



【巻頭特集】

星降るまちへ、ようこそ  
CATCH the STAR 鳥取県

【特集】

のんびり、レトロに山陰体感  
観光列車「あめつち」運行開始

『ホビー』(アクリル、22.0cm×33.3cm、2017年)



**すみ・まもる**  
1943年、鳥取県境港市生まれ。1974年、行動展に初入選以来、同展を中心に活躍。77年に全関西行動展受賞、以後3回受賞。80年に行動展奨励賞、90年に会員推挙。主な展覧会に郷土作家展「海と空と 角護・石谷孝二」(2007年、鳥取県立博物館・倉吉博物館・米子市美術館主催)がある。12年、鳥取県文化功労賞受賞。



『ある日の予感』(アクリル、182.0cm×227.0cm、2017年)

暗緑色の宇宙を見上げる顔が、クローズアップされた『ある日の予感』。傍らに立つのは、荒廃した枯木か。眼差しは無表情なだけに、内面的な思索の深さを思わせる。かすれたマチエール(絵肌)が効果的で、**隠喩**(※)に富む画面は見る者の想像を刺激し、かき乱す。

三方が海の半島に生まれた角護さんは、中学生になると危険な海峡を独泳するほど潮に親しんできた。周辺の住民はもちろん、すべて漁業に携わっている。絵を描き始めると必然的に漁夫をテーマにしたが、海原はまた現代の社会問題を映す鏡でもあった。

1970年代は未明に働く漁商を青色で描き、80~90年代は海洋汚染などの環境破壊を意識して赤茶けた色に変貌。2000年に渡米し、ニューヨークのツインタワーに上るが、翌年発生したアメリカ同時多発テロ事件での崩壊にショックを受け、描く人物は幾重もの複線と混色で翳りを帯びた。

そして現在、人類は「ある予感」におののく。足元の漁港から出発した制作は、いまや地球から宇宙へと広がり、壮大なスケールで「自然と人間」の関わりを問う。作品は社会を背景にしながら、あくまでも絵画として、果敢な「美の探索」は続くのである。

※隠喩=「~のようだ」「~のごとし」などの形を用いず、そのものの特徴を直接、他のもので表現する方法

自然と人間の行方問う 洋画 角護

あーこの森

洋画 角護

巻頭特集

星降るまちへ、ようこそ  
CATCH the STAR 星取県

生きものセンサー3000  
K原さんの里山Diary

6年越しのミツバアケビ

ここの人  
Human Life

石塚慶生 映画プロデューサー

カメラアイ  
Camera Eye

悠久の刻

きらり匠人  
継承の技が語る世界

造園工 門脇敏夫

特集

のんびり、レトロに山陰体感  
観光列車「あめつち」運行開始

花咲くYOKAI談  
水木しげると身近な妖怪たち

一反木綿

鳥取のうま味

普段着の新進フレンチ

VINAYAGUINE  
輝くミスターン者たち

ワイン醸造家、農業専門士(倉吉市)

企業紹介

日下エンジニアリング株式会社

文字の迷宮をゆく〜つれづれ書林女子〜『どこかにいつてしまったものたち』  
Voice

読者プレゼント・編集後記

34

33

32

30

29

28

22

20

18

15

14

4

2

とっとり  
鳥取県総合情報誌 vol.119  
Now  
2018 Autumn



▶ジョウビタキ◀

全長15cmでスズメよりやや小柄。越冬のために日本に渡る渡り鳥だ。オスは頭が銀白色で、人間の白髪を連想させる。名前のジョウは「耐」(銀髪)の古語に由来。繁殖期以外は単独行動で縄張り意識が強い。縄張りを主張するときに、びよこんとお辞儀をしながら鳴く姿が愛らしい。警戒心が薄く、民家の庭先で実をついばむ光景も。

写真提供\*NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部 吉田 亮



縄張り主張でびよこんとお辞儀

\*表紙作品のモチーフにした県内に住む鳥の特徴を毎号、紹介します。

●表紙イラスト● ASAKURA KOUHEI (朝倉 弘平)



絵かき。1983年宮城県仙台市生まれ。自然との交感をテーマにした水彩画を描く。家族で半年間の世界旅行中。まずはフランスのプラム・ヴァレレッジで、2週間の瞑想生活。人生の問いや怒りに向き合い、自らに微笑みかける不思議な体験をした。



# 星降るまちへ、ようこそ

CATCH the STAR 星取県



手を伸ばせばつかめそうな、満天の星たち。  
鳥取県には、星の見えやすさ、全国1位になった美しい星空が広がる。  
県内全市町村で「天の川」が見られることは全国的にも希であり、  
絶好の観察スポットも盛りだくさんだ。  
この貴重な財産を後世に残そうと、全国初の条例も制定された。  
ほら、見上げてごらん、『星取県』の空を。  
ここでしか出合えない感動が待っている。

文／井田 裕子 写真／田中 良子



「この地の星空の価値がようやく、多くの人に認知されてきて嬉しい」と宮本さん



反射望遠鏡では、月の模様までくっきり。今年9月24日が中秋の名月、25日が満月で見ごろ=写真提供：鳥取市さじアストロパーク

# 『星取県』の先駆けの地

## 天文普及へ尽力、今も

### 鳥取市さじアストロパーク

県内各所の観測地が「星の見えやすさ」(※)で何度も1位に輝くなど、美しい星空を誇る鳥取県。人口最少県での明かりの少なさを逆手に取り、県は『星取県』と銘打って近年、全国発信している。

その先駆けが、20年以上前に「星ふる国」として売り出した旧佐治村(現鳥取市佐治町)だ。村内の星空の価値に気づいたのは、ひよんなことから。当時の村職員が立ち寄った米子市のプラネタリウムだった。上

映中、周囲の客が映し出された星空に感嘆の声を発するなか、「ん？え？これよりうちの星空の方が…」と首をかしげる。当たり前すぎて見過ごしていた地元のお宝に、そこで初めて気づいたので。帰るとすぐに望遠鏡を購入、村内の子どもたちを誘い、天体観察会を定期的に開催するように。これが「星空の美しい村」として、村民が自覚する下地の一つとなった。

そして旧佐治村は94年、公開天文台「さじアストロパーク」(現…鳥取市さじアストロパーク)を開設。当時、直径103cmの反射望遠鏡は、日本一の大きさとして話題となっ

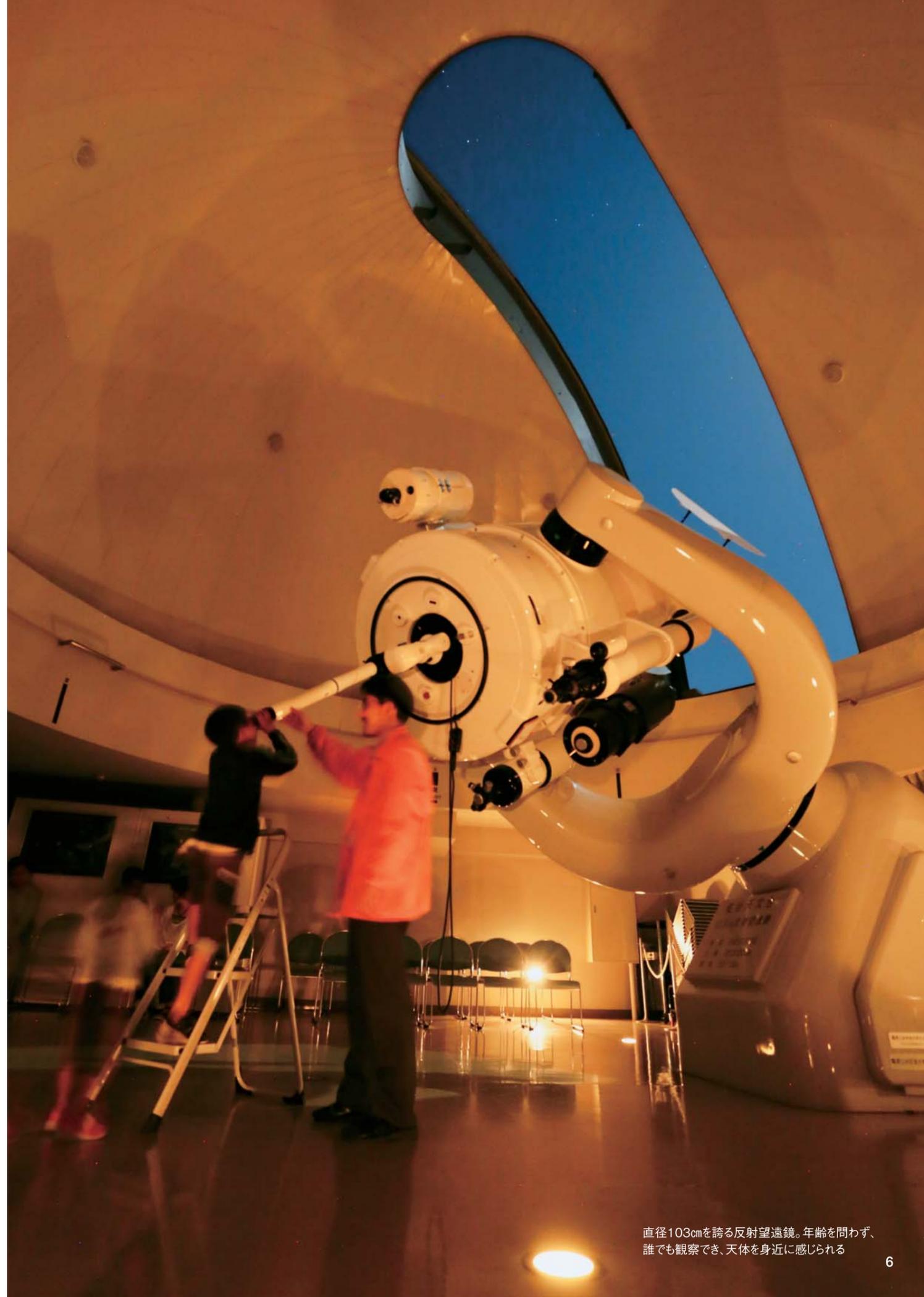
た。天文台と同時に高性能の望遠鏡で自由に観測できる宿泊施設「星のステージ」4棟も整備。オープン当初から注目を集め、家族連れや全国の天文ファンが訪れるように。最近では海外からの宿泊客も増えているという。

晴れた日には毎晩、天体観察会が開かれており、この取材日は月のクレーターと木星の縞模様、太陽系からはるかに離れた「うしかい座のアルクトゥルス」などが、詳しい解説付きで見られた。観察会の最後にはスマートフォン(スマホ)で月のクレーターを撮影することができ、子どもも大人も大興奮。自分が広大な宇宙の一員であることを実感した。

同パークは来年でオープンから四半世紀を迎えるが、今も変わらず天文普及の姿勢を貫く。『星取県』が宣言されてから、鳥取砂丘などで行う出前観察会の要望が増えたとい、副所長の宮本敦さんは「地元の方たちが案外、その魅力に気付いていない。恵まれた環境を自覚して、星について少しでも語れるようになってもらえたら」と願いを込める。

- ☒ 鳥取市さじアストロパーク
- ☒ 鳥取市佐治町高山1071-1
- ☎ 0858-89-1011
- 🕒 9時～22時(4～9月)、9時～21時(10～3月)  
最終入館は閉館30分前まで
- 🗓 毎週月曜日、祝日の翌日、第3火曜日、12月29日～1月3日など
- 🎫 一般(高校生以上)300円、中学生以下無料  
※プラネタリウム・天体観察会は、一般300円、小中学生200円
- 🌐 <http://www.city.tottori.lg.jp/www/contents/1425466200201/>

※星の見えやすさ=環境省が、毎年夏と冬に実施していた「全国星空継続観察」(1988年～2013年)の結果による。



直径103cmを誇る反射望遠鏡。年齢を問わず、誰でも観測でき、天体を身近に感じられる

天の川：夏のイメージがあるが、夏から秋にかけてが見ごろ。夏の  
大三角を目印に雲のようなものが見えたら、天の川の可能性大  
＝写真提供：多賀利寛(場所＝鳥取市さじアストロパーク)

☎ 鳥取天文協会本部・事務局  
☎ 0858-89-1011  
(鳥取市さじアストロパーク内)



小惑星命名の認定書を持つ多賀さん。国際天文学連合の認定までには、膨大な資料を提出したうえ、何年もの月日がかかるという

### 鳥取天文協会会長・多賀 利寛さん

世界的な天体発見者の故・本田実さん(旧八東町出身)とも交流があった。「岡山県倉敷市から実家に帰る途中、鳥取県への県境を越えた途端に暗

「星空保全条例」(10頁)にも制定当初から関わってきた多賀さんは、「何としてもこの星空を子どもたちに残したい。都会に出て、ふとしたときに心を満たす風景が『ふるさとの夜空』であって欲しいから」と、少年のように目を輝かせた。

ただ眺めるだけで心癒やされる星。星座や星の名前を知ると、もっと星空を楽しめるようになる。鳥取天文協会会長で、長年、県内各地の星の観察会で講師を務めてきた多賀利寛さんに、鳥取の環境の良さや星の楽しみ方などを聞いた。

定期的に関く星の観察会では、まずは星座にまつわる話を交えるなど、星に親しみやすいよう工夫を凝らす。「星は肉眼でも十分に楽しめます。じっと見上げていれば10分ほどで目が慣れて、視界に星が浮かんでくる。興味がわいたら、観察会などで望遠鏡をのぞいてみて。月のクレーターや暗い星もはっきり見えやすよ」とアドバイス。

多賀さんは小学生の頃から星に興味を持ち、関連本を何度も図書館で借り、星座表を書き写すなどして勉強。以来、自宅屋上と鳥取市内の2カ所に観測所を設置するほどの星マニアだ。その情熱と普及活動が認められ、2005年には県教育委員会表彰を受賞。17年には小惑星に「Tagatoshihiro」の命名が認められるなど、世界にもその名を馳せている。

「星空保全条例」(10頁)にも制定当初から関わってきた多賀さんは、「何としてもこの星空を子どもたちに残したい。都会に出て、ふとしたときに心を満たす風景が『ふるさとの夜空』であって欲しいから」と、少年のように目を輝かせた。

## 「素晴らしき暗さが財産

### 目白押し! 土星、火星、流星群も

【秋冬観察のオススメ】

一晩の間に刻々と変化する星空。季節によっても見える星座や流星群は異なり、四季の移ろいととも、さまざまな天体を観測することができる。

特に秋はオススメの季節。秋雨の時期が終われば天候も安定し、空気の透明度もアップ、絶好のコンディションになる。

まず見てほしいのは、鳥取県なら多くの場所で見られる「天の川」。膨大な数の星が集まっているため、目視だと白い雲が広がっているように見えることもあり、「実は見ているのに認識していない」人も多いという。「おりひめ(ペガ)」、「ひこぼし(アルタイル)」と「はくちょう座(デネブ)」の「夏の大三角」を目印に探してみよう。

さじアストロパークの天体観察会で最も喜ばれるのは、9月中旬までよく見える土星。天体望遠鏡をのぞけば、土星の環もはっきりと見ることができる。10月中旬までは火星も見ごろ。天王星や海王星、ドーナツ星雲、アンドロメダ星雲など、季節ごとに満天の星空をめぐり、はるかかなたの宇宙へと思いを馳せる。

「10月りゅう座流星群」(10月)、「おうし座流星群」(11月)、「ふたご座流星群」(12月)と大小の流星群も目白押し。夜だけでなく昼間も観測のチャンスはある。秋から冬にかけて最大光度になる金星は、昼間にも肉眼で見えるという。

日常に追われて空を見る余裕のない人も、たまには顔を上げて、星に目を凝らしてみれば。輝く星たちが静かに語りかけてくれる。



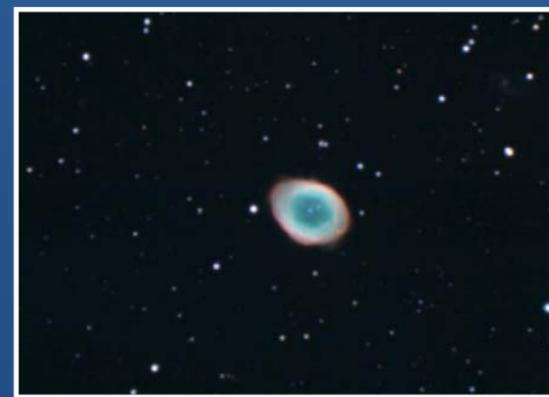
土星：周囲の環が特徴的なため、太陽系の「人気者」。大きな望遠鏡で見ると、環の中に黒い隙間も見える。2018年は9月中旬ごろまで条件よく観察できる



アンドロメダ銀河：SFやアニメに登場するおなじみの名前。地球から約230万光年離れている星の大集団で、太陽のような恒星がおよそ2000億個以上も



火星：地球のすぐ外側を回っており、2018年7月31日に地球に大接近した。大接近後、急に離れることはない、10月中旬ごろまで目立って見える



ドーナツ星雲：こじ座の中にあるドーナツのような形。とても暗くて小さいので、望遠鏡でなければ見られない。星がその一生を終えた最期の姿だ

写真提供：鳥取市さじアストロパーク

# 独り占めできる贅沢を堪能

## 誇れる空間、偉大な鳥取砂丘

鳥取砂丘では神秘的な「月の出」も眺められる＝撮影：水本俊也



「小鳥の家族」で撮影される家族(写真上)。夕方からは鳥取砂丘駐車場で星空観望会も(写真下)＝撮影：水本俊也



☎ 小鳥の家族(小鳥企画)  
🌐 <http://kotorinokazoku.tottori.jp/>

サラサラサラ。聞こえるのは風に吹かれる砂の音のみ。心地よい砂の感触におぼれながら、空いっぱい星たちに抱かれているかのよう。私が星を見上げているのか、星が私を見つめているのか。

写真家・水本俊也さんは、鳥取の自然の中で家族写真を撮る「小鳥の家族」をライフワークにしている。その舞台の一つに鳥取砂丘を選んだのは、昼から夕方、夜、日の出と、刻々と変化する大地と空の色の美しさから。「写真では伝えきれない」と思った。ここでも過ごして体感してほしい」と、鳥取砂丘で撮影した後、そのまま一晩を明かすイベントを4年前に初めて企画した。

今年「小鳥の家族×鳥取砂丘×星空ノスタルジック」と銘打って、7、8月に開催。初日午後に思い思いの場所やスタイルで家族写真を撮影、夕暮れ時には砂丘から日本海に沈む夕陽を堪能。だんだんと夜の帳が下りていくとともに、水平線にイ

力釣り船の漁り火が灯りだす。砂の上に寝転がれば、そこはもう星だけがまたたく世界。

「鳥取に住んでいても砂丘で寝転んだ経験のある人は、ほとんどいないでしょう。砂丘は、山に比べて街の明かりや漁り火があるので安心感がありますよ」。近くのキャンプ場にテントも用意しているが、半数近くは砂丘で寝ることを選ぶという。

撮影で世界中の空を眺めてきた水本さん。「それでも、やっぱり鳥取砂丘はすごい。星空を独り占めできる感覚が味わえる場所は、そうはない」と熱く語る。

一度経験すると、その魅力にとりつかれる人が多く、関東、関西からのリピーターも多いという。「砂丘は鳥取が誇れる空間。一晩でそれが実感できますよ」。

日常を忘れられる、このうえなく贅沢なひとときだった。

鳥取県は、美しい星空を守るため2018年4月1日、「鳥取県星空保全条例」を施行、同時に鳥取市佐治町を「星空保全地域」に指定した。都道府県で星空の保全と、その活用に特化した条例の制定は全国で初めて。

### 全国初の「星空保全条例」を施行

同条例は、美しい星空が見える環境を県民の財産として保全し、次世代に継承するため、昨年12月に制定された。内容は、▽光害の防止▽星空を生かした環境教育の推進▽星空保全地域の指定▽屋外での投光器などの使用制限など。使用制限の違反者には、勧告、命令を経て5万円以下の過料が科される。

このうち星空保全地域は、特に優れた星空環境にある地域を指定するもの。第1号に選ばれた鳥取市佐治町には、屋外照明の使い方に基準が設けられるが、照明器具の改修や星空イベントの実施には県からの支援が受けられる。このほか、日南町も6月に指定を受けた。

☎ 鳥取県環境立県推進課  
☎ 0857-26-7206  
🌐 <http://www.pref.tottori.lg.jp/274611.htm>



千貫松島(岩美町)

星をゆったりと楽しむための観察の条件や道具、心得などを紹介。

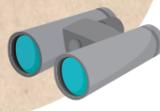
★天気★

雲のない晴れた日が最適。天候が良くても月が明るいとき星が見えにくくなるため、満月の頃は避け、月の光が弱くなる新月の頃に観察するのがベスト。ただし、月の観察は上弦(半月)から満月前がオススメ。



★双眼鏡★

肉眼よりもう少し大きく星が見たい時には双眼鏡が便利。倍率6~10倍の双眼鏡だと手ブレも少ない。倍率10~30倍を選ぶとブレの影響が大きくなるので、三脚で固定を。



★天体望遠鏡★

月のクレーターや惑星の表面まで見たければ、天体望遠鏡の出番。持っていない場合は、各地で開催される天体観覧会に参加すると良い。団体向けに、県からの貸し出しもあり。

鳥取県環境立県推進課  
☎0857-26-7206



★星空アプリ★

最近、星座を探すのに便利なのがスマートフォン用の「星空アプリ」。現在位置や方角も自動で表示してくれる。無料や有料、種類もさまざまで、自分のお気に入りを探すのも楽しい。



★スマホやデジカメで撮影★

天体望遠鏡の接眼レンズにスマホやデジタルカメラをセットすると、星それぞれの表情、を鮮明に写真に収めることができる。



★服装★

夏でも夜は肌寒くなるので防寒着の用意を。冬はさらに万全の防寒対策が必要。



星取県スター大使特別賞「光陰 火球の如し」  
(星取県フォトコンテスト受賞作品)

県内には、身近に数々の星空みどころスポットが満載。見る場所によって、さまざまな表情を醸し出す様子を写真で紹介する。

写真提供：鳥取県



鳥取城跡(鳥取市)



燕趙園(湯梨浜町)



丸山パイロットファーム(伯耆町)

星空関連イベント

□ 鳥取砂丘星空ヨガ □

夜の鳥取砂丘でヨガ体験。星空に包まれ、宇宙とつながったような気分になれる。

鳥取砂丘YOGA  
☎080-5756-4450  
http://www.sand-dunes-yoga.com/



□ 大山星空で遊ぶツアー □

写真家がガイドする! 星空と参加者をモデルに、大山で撮られる、ツアー。

大山観光局  
☎0859-52-2502  
http://tourismdaisen.com/tour/star/

□ スターウォッチング □

世界屈指のラジウム温泉のまちで天体観測。温泉で体を癒やし、星で心の癒やしを。

三朝町観光協会  
☎0858-43-0431  
http://spa-misasa.jp/hoshitori/



ここにこの

Human  
Life



「こんな映画を観てみたい」を原動力に  
大勢のプロを率いての映画作り。  
ビジネスとしての成功も見定めつつ  
エンターテインメント(エンタメ)として世に送り出す。  
映画プロデューサー・石塚慶生さんの作品には、  
よくも悪くも人間くさい人物が登場し、  
観る人に勇気や生きる力を与えてくれる。

映画プロデューサー

石塚 Ishizuka  
Yoshitaka 慶生

文/日高 むつみ 写真/高野 宏治

映画、アニメ、漫画に  
夢中だった少年時代

『子ぎつねヘレン』という映画をご存知だろうか。視覚・聴覚・嗅覚を失った子ギツネと少年のふれあいを描いた作品で、生きる意味や弱者の立場を考えさせられた。また、作家・井上靖の自伝的小説をもとにした『わが母の記』は、介護や看取りの問題に向き合うきっかけをくれた。これらの映画の制作を指揮したのが、プロデューサー・石塚慶生さん。石塚さんが生まれ育ったのは米子市よなごの中心地だ。

「当時は、市内に映画館がいくつもあって。小学校から高校まで、頻繁に通いました。『E.T.』や『バック・トゥ・ザ・フューチャー』などの洋画をはじめ、『宇宙戦艦ヤマト』『機動戦士ガンダム』などのアニメも。非常に楽しい時代でした」

大学進学で上京してからは、ア

ート系の映画にハマった。

「渋谷なんかのオシャレな単館系映画が流行って。要するに基本的にミニーハーなんです。流行りものに弱いんですよ(笑)。今も恋愛ものが流行ってるからやろう、時代劇が流行ってるから、じゃあ自分ならどう作るか、って感じで」

企画→公開まで総指揮  
作品は「我が子」のよう

時代の空気を読むのに長けているのだろう。石塚さんが世に送り

出した映画の多くが観客に支持され、興行収入でも成果を得た。

「結果、ジャンルは見事にバラバラだけど(笑)。監督には作風があるが、僕にはない。毎回、違う監督と組むし、脚本家も役者さんも撮影スタッフも、その都度異なる。そこが、この仕事の醍醐味のひとつですね」

「これを映画で見てみたい！」と思えるネタを探し当て、最初から最後まで一貫通で指揮をとる。それゆえ、企画から公開までは膨大な手間と時間との闘いだ。

撮影や照明、宣伝など、部門それぞれのプロフェッショナルが多数関わるため、時にぶつかることも。その調整役も任されている。

また、キャストینگが難航したり、資金集めに行き詰まったりと、さまざまな局面で壁にぶち当たることが多いという。

「公開後もドキドキハラハラ。知り合いなどに、電話やメールでアピールしまくります。自分が携わった作品は、いわば我が子と同じ。産んで育ててデビューしても、さらに気をもむんですよ」

いしづか・よしたか

1969年、米子市生まれ。早稲田大学理工学部卒業後、株式会社東北新社に入社。CM制作に携わった後、2003年に松竹株式会社に入社。プロデューサーとして『子ぎつねヘレン』を皮切りに、『ゲゲゲの鬼太郎』『武士の献立』『植物図鑑 運命の恋、ひろいました』などを制作。『わが母の記』は、第35回モントリオール世界映画祭審査員特別グランプリ、第36回日本アカデミー賞12部門の優秀賞を獲得。

社会にコミットできる作品を



作っていききたい

後世に残る映画

松竹入社から15年、石塚さんはもうすぐ50歳の大台に乗る。

「いろんな映画を作ってきたけれど、振り返ってみると自分が得意なのはノンフィクションを元にした作品。人間の生き様を描くものが好きだし、映画にしがいがあ

る」  
この冬公開の新作『こんな夜更けにバナナかよ』も実話が原作。自らがボランティアを募り、自宅で24時間体制の介護を実現させた重度の筋ジストロフィー患者・鹿野靖明さんを描いたもの。障がい

がある人や弱者に対する関心が社会的にまだ薄く、バリアフリーという言葉の浸透もしていなかった時代のことだ。

動くこともままならない体で、あくまで食欲に生きることを選んだ鹿野さんの生き様が、石塚さんの心を打った。

「弱い人間だって生きる意味があると強烈に教えてくれた。困難に満ちた今こそ、これをエンタメにして社会に届けるべきだと」

わがままで口汚いが人間的な魅力に満ちたこの主人公を演じるのは、俳優の大泉洋さん。そこに恋愛も含む若者たちとの人間模様を絡めることで、「生きること」についての切実なテーマでありながら、上質のコメディに仕上がっている。

「お手本にしたのは寅さん。寅さんってマドンナに惚れてるのに彼女の恋愛を助けちゃうでしょ？ 憎めないし、あったかいですよ」

織田信長のような英雄ではないが、生きる力を与えてくれる。そんな市井に生きるヒーローを描きたいと石塚さんは言う。

「映画は100万人単位の人に見てもらえる素晴らしいメディア。これからは後進を育てつつも、社会にコミットし、後世に残るものを作っていきたい」

石塚さんが産み育てた我が子の共通項は、「血の通ったあたたかさ」。それは映画館を出た後も、心にじんわり、じんわり効いてくる。

石塚さんがこれまで手掛けた数々の作品ほか、今冬公開の『こんな夜更けにバナナかよ』(渡辺一史著)の原作本と脚本



描きたい  
「名もなきヒーロー」



水木しげるの漫画が実写化された『ゲゲゲの鬼太郎』(2007年公開)=写真提供:松竹株式会社



## 悠久の刻<sup>とき</sup>

撮影／佐伯 範夫（島根県安来市）  
写真提供＝鳥取県立むきばんだ史跡公園  
「第12回弥生の写真コンクール」最優秀賞作品

日本最大級の弥生集落遺跡が集まる<sup>むきばんだ</sup>妻木晩田遺跡。再現された竪穴式住居が、当時の生活や文化を思い起こさせる。ある秋の日、雲の合間から怪しげな光が現れ、幻想的な光景が目前に広がった。ふと弥生時代にタイムスリップしたような錯覚を覚えた。



人と自然がなじむ、安らぎの空間造り

枯山水を基本とする日本庭園をはじめ、茶室に通じる「路地庭」や、限られた空間に自然を再現する「坪庭」など、伝統的な和風庭園工事で高く評価される門脇敏夫さん(69)。造園工としてのキャリアは、約48年。一から独学で学び、これまで個人住宅を中心に数百の庭を手がけてきた。

造園工 門脇 敏夫

高校卒業と同時に、父親の幸太郎さんが営む河崎植木園に入社。植木の管理と納品が主な仕事だった。転機が訪れたのは、20代前半。納品先の造園工事で起こったトラブルにより、急遽、門脇さんが庭を造り直すことに。「未経験の自分がまさかやることになるとは…。不安でしたが、夢中で石を組み、樹木を植えた。すると完成後、予想以上にお客様から喜ばれてびっくり」と振り返る。

造園に面白さを感じ、その後は猛勉強の日々。京都、東京の名庭を巡るだけでなく、茶道や生け花を習うなど、和風庭園造りに必要な感性を貪欲に養った。見てまねて、やってみて、自分のものにする。それが門脇さんのモットーなのだ。「若い頃は施主の要望に合わせるのに必死だったが、今は樹木の育成を見越した上で意見を言う事も。ただ施主の発想は、自分の未知の能力や技術を引き出してくれることもあり、一番の先生でもあります」

長い歳月をかけ、家と自然、人がなじみ合う安らぎの空間。たゆまぬ努力と光る感性が、それを彩り続ける。

文/島 香子 写真/田中 良子



ツバキを手際よく剪定する門脇さん。日当たりと風通しを考えながら、できるだけ自然な形に整えていく

MEMO

2007年、県内の造園工で初の「卓越した技能者(現代の名工)〔厚労省〕」に選ばれた。県造園建設業協会役員、県景観アドバイザー(緑化部門)を務め、県内の環境緑化・造園業界振興に注力。2013年、湖山池公園(鳥取市)を主会場に開催された「第30回全国都市緑化フェア」では企業・団体部門に出展、自身のデザインによる庭園作品(50平方メートル)を披露した。

40年来愛用する剪定バサミ。長年使い続けているため、歯が削られて短くなっているが、使いやすさから手放せないという



近年は洋風建築に合わせた庭づくりの依頼が増加。ウッドデッキの一角にさりげなく洗練されたデザインの庭  
=写真提供:門脇敏夫



鳥取市で開催された「全国都市緑化とっとりフェア」で出展した作品。遊び心たっぷりの飛び石の配置が印象的  
=写真提供:門脇敏夫

河崎植木園  
米子市河崎171-4  
0859-29-0965

# のんびり、 レトロに山陰体感

観光列車「あめつち」運行開始

創意工夫を凝らした内外装やシート、その場所でしか見られない車窓、美味しいご当地グルメや地酒——。観光列車の旅はスペシャルにあふれている。21世紀はそのブームに火が付き、全国の鉄道各社は、こぞって地域の特色を盛り込んだ観光列車を仕立てている。そしてついにこの山陰エリアにも待望の「ジョイフルトレイン」がやって来た。

文／鳥飼 明子 写真／萱野 雄一

## ▼ロゴ・デザイン▼

「天地」という名前は、『古事記』の書き出しである「天地の初発のとき」に由来。エンブレムは山陰地方に伝わる日本神話の世界をモチーフに、「天」には太陽と放射状に降り注ぐ光、7つの八雲、金色のトンビを、「地」には海を表した横ラインにシロウサギ、ワニ(サメ)がデザインされている。





見逃せない壮大な大山。季節によって表情が変化する(大山町)

# 心躍る颯爽としたフォルム



※キハ47形=1977年~88年までに製造されたキハ40系気動車のうち、暖地向けに製造した車両



景色が見やすい窓際の席は少人数で、グループでの利用はボックス席がおススメ。木目が美しい椅子はゆったり腰掛けられる

「天地 AMETUCHI」のヘッドマークをキラキラ輝かせながら、美しい紺碧色の列車がゆつくりと駅に入ってくる。山陰に新しく登場した観光列車「あめつち」(JR鳥取駅→出雲市駅間運行)だ。「列車旅を通して山陰でしかできない体験を」と、JR西日本が今年7月から運行をスタート。車体のディーゼルブルーは山陰の空と海を、シルバーの帯模様は中国山地の山並みと、たたら製鉄にちなんで日本刀の刃文を表しているという。山陰本線でおなじみの「キハ47形」(※)を改装したもので、その面影が残る列車に鉄道ファンが注目しているとか。颯爽と

した姿にはファンならずとも胸が躍る。

コンセプトは「ネイティブ・ジャパニーズ」。山陰地方は「因幡の白うさぎ」「八岐大蛇」といった日本の神話が生まれた土地。神社、酒、歌舞伎、相撲など、日本のさまざまな伝統文化のルーツもあり、それらを車両に散りばめることで、「古くて新しい日本」を感じてもらおうというものだ。

デザイン・監修には、2人の郷土出身者が関わっている。映画『RAILWAYS』49歳で電車の運転士になった男の物語『たたら侍』で知られる映画監督・錦織良成さん(鳥根県出雲市出身)と、アニメーション映画『ハウルの動く城』『崖の上のポニョ』など、スタジオジブリ作品の美術監督を務めた吉田昇さん(鳥根県松江市出身)だ。第一線で活躍中の2人の感性とアイデアが、そこかしこに光る。また車体の帯模様を描いたのは吉田さん。運転台の壁にはその原画が飾られており、ジブリファン必見だ。



山陰の銘菓・銘酒が買える物販カウンター

「あめつち」では、山陰のグルメを存分に楽しめる、それぞれ2種類の食事、スイーツを提供。どれもオリジナルで、車内でしか食べられない限定品だ。

## 召しませ 限定品グルメ

鳥取駅(9:00発)→  
出雲市駅(12:47着)便で提供



### ▽天地御膳 世明▽

鳥取牛、アユ、アゴ(飛魚)、サザエ、シイタケなど、山陰の滋味が満載。日本神話の世界観、山陰の景勝が見事に表現されており、「お品書き」を見ながら味わうのも楽しい。お茶付き。

料金/2,500円(税込)  
制作/アベ鳥取堂  
監修/味楽庵なか山  
電話予約先/0857-26-1311  
(アベ鳥取堂)  
受付時間/10時~12時、13時~17時

出雲市駅(13:41発)→鳥取駅(17:36着)便で提供



### ▽山陰の酒と肴▽

島根牛のローストビーフ、シジミ入り卵焼き、出雲そばの素揚げなど、松江市の老舗料理店が創作した郷土色豊かな料理。酒は松江市の純米吟醸酒か松江の地ビールのどちらかを選択。

料金/2,000円(税込)  
制作/一文字家  
電話予約先/0852-22-3755(一文字家)  
受付時間/11時~17時

### ▽大江ノ郷スイーツセット▽

大江ノ郷自然牧場(八頭町)自慢の「天美卵」を使用した、「季節のぶりん&たまごロールケーキ」のセット。素材の旨味が染みわたる。焼き菓子とコーヒー付。

料金/2,000円(税込)  
制作/大江ノ郷自然牧場  
電話予約先/0858-72-6007  
(八頭町観光協会)  
受付時間/10時~17時  
※定休日12/31~1/2



### ▽松江の和菓子詰合せ▽

イザナギ・イザナミが天沼矛で大地を創造した神話をモチーフに創作した特製生菓子「あめつち」や、茶人・松平不昧ゆかりの銘菓「若草」などを詰め合わせた豪華セット。煎茶付き。

料金/2,000円(税込)  
制作/御菓子司 彩雲堂  
電話予約先/0852-26-2011  
(松江おちらとあるき観光案内所)  
受付時間/9時~17時

#### 【注意事項】

- 事前に関東JRで「あめつち」の乗車予約をし、食事は各店で乗車1カ月~4日前までに電話予約。その際、乗車区間と座席番号が必要。
- メニューは季節、仕入れ状況によって変更あり。
- 乗車が下記区間の場合、食事の申し込みは不可。
  - 鳥取→出雲市(下り):鳥取~倉吉、米子~安来、米子~松江、安来~松江
  - 出雲市→鳥取(上り):玉造温泉~松江、松江~安来、安来~米子、倉吉~鳥取



目の前に広がる青い日本海(湯梨浜町)



見渡す限りの田園風景も山陰を旅する醍醐味のひとつ(北栄町)

# 絶景を堪能しつつ、グルメに舌鼓も

さて、車内に足を踏み入れると早速、地元の工芸品たちがお出迎え。乗降口には山陰の伝統的な織物、座席テーブルには石州瓦のタイルが飾られており、天井照明のシェードは因州和紙だ。レトロモダンな雰囲気醸す設えに、旅気分が一気に揚がった。

1号車(29席)は鳥根県、2号車(30席)は鳥取県をイメージ。座席数が少なめだから、仕切りがなくともプライベート感がある。「青い日本海と雄大な大山」「パノラマに広がる宍道湖」「鱗状砂州が美しい斐伊川」といった3カ所の絶景ポイントでは、徐行運転を実施。山陰の豊かな自然をじっくりと堪能できる。

そして、観光列車のお楽しみといえばグルメ。車内で提供される食事は高級感たっぷり、地元の食材がふんだんに盛り込まれた折詰のほか、鳥取・鳥根を代表する甘味をアテンドが運んでくれる。また、2号車の物販カウンターには山陰の銘菓・銘酒、おつまみがズラリ。オ

リジナルのピンバッジ、クリアファイルなど、限定グッズも購入できる。ふいに「おみくじをどうぞ」と、車掌さんに声をかけられた。折り紙を開いてみると神話の登場人物にちなんだ占いが書いてあり、女心をくすぐる仕掛けにニヤリ。このほか、シンガーソングライター・浜田真理子さんが作詞作曲した「あめつちのテーマ」が走行中に流れ、軽快でさわやかなメロディーが、旅気分をさらに盛り上げる。

車内探検をしたり、風景や食事を楽しんだりしているうちに、あっという間に目的地に着いてしまった。単なる移動手段ではなく、旅に彩りを添えてくれる「あめつち」にもかわらず、リーズナブルな料金で、家族旅行や女子旅にピッタリだ。

乗降口へ向かうまでの間、もう一度車内を眺めた。なんだか名残惜しい。旅先で出合い、仲良くなった人と別れるときのような・・・。「きつとまた、いつか」。心の中で再会を誓って列車を降りた。

## \*車内の工芸品紹介\*

「あめつち」の車内には、山陰の伝統を受け継ぐこだわりの工芸品が随所にあしらわれている。職人たちの魂がこもった見応えのある作品を紹介する。



◎石州瓦◎  
鳥根県西部の石見地方で生産される粘土瓦。出雲の来待石から採れる釉薬をかけた独特の赤褐色が特徴。濃淡を組み合わせた市松模様のタイルにして、座席のテーブルにはめ込まれており、車内に心地よいリズム感を生み出している。

◎因州和紙◎  
1200年以上の伝統を受け継ぐ因幡の和紙。水を落として丸い模様をつけた「落水紙」、繊維を散らして雲のような模様を表した「雲龍紙」の2種類が天井照明に施されている。浮かび上がる繊維模様が美しく癒される。



◎岩井窯◎  
洗面スペースの手洗い鉢は、鳥取県岩美町にある岩井窯・山本教行さんの作品。釉薬をはけに含ませて器に勢よく打ちつけるように飛ばす「打掛け」という手法で作られており、計算と偶然が織りなす大胆な模様が魅力的。



◎山陰の銘木◎  
山陰は銘木の産地としても有名。1号車は色調・光沢が美しい「隠岐の黒松」、2号車には均等な木目で品質の高い「智頭杉」。その板に剣や八雲、ウサギやサメといった神話のモチーフが彫り込まれ、壁に飾られている。



◎西尾絞り◎  
「西尾絞り」は、鳥取市佐治町の絞り染め作家・西尾正道さん独自の絞り技法。伝統の中にモダンなテイストを加えた暖簾が2号車の物販カウンターをさりげなく彩る。優しい曲線、淡いブルーとグリーンの発色が美しい。



◎神楽刺繍◎  
大きく口を開けた龍と渦巻き、日本海の荒波と千鳥、たなびく八雲。2号車のサブカウンターで存在感を示すのは、石見神楽衣裳のミニチュア。豪華絢爛な刺繍はすべて手作業。一針一針の細かさ、生き生きとした表現に目を見張る。

◎織物◎  
1号車の乗降口に飾られているのは、絣織から発展した鳥根県の織物「安来織」と「出雲織」。鳥根県が舞台の日本神話を題材に、安来織は伝統的な意匠と八雲などを、出雲織は「八岐大蛇」に登場する斐伊川や川霧をイメージして製作。



◎絣◎  
2号車の乗降口には鳥取県を代表する絣「弓浜絣」と「倉吉絣」が飾られている。弓浜絣は草花や生き物の柄、倉吉絣は地元に伝わる打吹天女伝説の「天女と童子」の絵柄が丁寧に織られており、作品から真心が伝わってくるよう。



### 「あめつち」運転日・時刻・料金等情報

【運転日】2018年7～11月の土、日、月曜日を中心に運行。  
※11月12日は運休。

【時刻表】▽下り[鳥取→出雲市]  
鳥取9:00→倉吉9:45→米子11:06→安来11:16→  
松江11:45→出雲市12:47

▽上り[出雲市→鳥取]  
出雲市13:41→玉造温泉14:26→松江14:43→  
安来15:22→米子15:35→倉吉16:36→鳥取17:36

□全車指定席。運賃の他に普通列車の指定席グリーン料金が必要。  
□乗車日の1カ月前から、全国のJRの主な駅の「みどりの窓口」や主要な旅行会社で購入可能。

問 JR西日本米子支社 ☎0859-32-0255

#### 【料金】

	鳥取				松江				玉造温泉	
倉吉	1,440 (1,100)		倉吉							
米子	2,640 (1,810)	1,950 (1,460)	米子							
安来	3,610 (2,640)	2,120 (1,550)	970 (870)	安来						
松江	3,940 (2,800)	2,470 (1,720)	1,270 (1,020)	1,180 (970)	松江					
玉造温泉	3,940 (2,800)	2,470 (1,720)	1,440 (1,100)	1,270 (1,020)	970 (870)	玉造温泉				
出雲市	4,540 (3,240)	3,610 (2,640)	2,120 (1,550)	1,950 (1,460)	1,350 (1,060)	1,270 (1,020)				

上段：大人 下段( )：小児 ※上記には運賃・指定席グリーン料金を含む。

# 鳥取の うま味

変化に富んだ  
好味を追求



## ■ 普段着の新進フレンチ ■

オードブルは「エスカルゴのブルギニオン」(800円)。エスカルゴ・キノコ・ホタルイカなどを、ハーブやニンニクなどを練りこんだ香り高いバターで炒めた一品。メインの「魚介のブイヤベース」(1600円)は、カサゴ・タイ・タラの旨みと香味野菜の出汁がきいた濃厚スープが美味。夜のコースは3000円から。



● フレンチバル エピス ●  
 所 鳥取市弥生町184  
 ☎ 0857-24-2750  
 営 11時30分～13時30分、  
 17時30分～21時(入店)  
 休 水曜日

繁華街の片隅にさりげなく佇む、鳥取では珍しい「フレンチバル」がある。格式を重んじるフランス料理を、アラカルトでも気軽に楽しめる形式で、オープンキッチンとカウンター席のみのスタイルだが、その味は本格派だ。

オーナーシェフの太田儀孝さんは、ホテルやレストランなどを経て、鳥取市内でフランス料理店を長く経営。「65歳になったら、調理も接客もすべて自分でする小さな店をやる」と決めていたといい、現在の店を開店した。

豚肉のリエット(※)や魚介のブイヤベース、牛肉のステーキなどを軸に、新作もたびたび登場。フォン(出汁)やドレッシングも手製にこだわるほか、食材は自ら吟味し、採取することも。例えば自分で掘ったタケノコはポタージュスープに。素材の旨みを引き出しながら、ワカメを加えたり山椒入りのクリームをトッピングしたり、和食の歴史も盛り込むなど、常に創意工夫を怠らない。食材の歴史も調べるなど、料理や味に対する探究心は尽きない。

「料理は化学。いい塩梅」にはちゃんと根拠があるんだよ」と太田さん。作り手のアイデアや食べ手の思いが混ざり合っただけで起こる、おいしい化学反応。一品ずつ、じっくり堪能したくなる店だ。

※リエット=豚肉やガチョウの肉をラードで煮込み、容器に入れて固めた保存食。パンに塗って食べる。

楽しそうに妖怪画の彩色作業をする水木さん



## 漫画は苦しい、妖怪は楽しい

東京・調布市の水木プロに通っていた頃、水木さんが漫画を描いている場面を一度も見たことがなかった。アシスタントたちへの指示はしていたが、作品の基盤となる下書きやネーム(台詞)入れは、夕方から夜にかけて、一人で個室にこもってやっていたからだ。

そのかわり、よく目にしていたのが、古今東西の妖怪画の彩色作業。応接間に隣接している小部屋で、机の上に紙芝居作家時代から使っているという染粉(絵具)の瓶と絵皿を並べ、楽しそうに色を塗りながら水木さんは言ったものだ。

「漫画は筋を考えにやいかんから、なかなか苦しい。でも妖怪は一枚絵ですからね。形や色を考え出すのが面白いし、描いてると次第に元気が出てくるんです」

一枚絵の妖怪画を始めたのは、一時漫画の注文が減り時間の余裕ができた頃だった。アシスタントの仕事の確保と、自分の時間潰しのため始めたのだが、それが後年に至り妖怪画の辞典『日本妖怪大全』(1991年、講談社)やベストセラーとなった妖怪の解説書『カラー版妖怪画談』(92年、岩波書店)に結実、商売の面でも正解だったことになる。

「それに漫画は作り話だけど、妖怪は本当に世界中におるわけですからね、つつい力が入るわけですよ、ワハ、ワハハ」

当時、70歳前後の水木さんの口癖は「漫画を描きながら死ぬなど、まっぴら御免!」だった。

▼参考文献:『図説 日本妖怪大全』(1994年、講談社+a文庫)

文/足立 倫行 イラスト/ミギワン

# 花咲く Yokai談

境港市出身の漫画家・  
故水木しげるに  
まつわるエッセー

水木しげると身近な妖怪たち



妖怪  
ファイル  
Vo.2

## III 一反木綿

怖いのに抜群の人気!

境港市観光協会が企画に関わった市の土産品に、鬼太郎の妖怪軍団のメンバー「一反木綿」をモチーフにした「境港妖怪」がある。小豆羊羹の上に空に見立てた寒天を乗せ、ひらりと舞う「一反木綿」を白あんで表現した。なぜ「一反木綿」が市を代表する商品の顔に選ばれたかについては、10年ほど前に市が実施した妖怪人気投票で、「巨玉おやじ」「ぬりかべ」などを抑えて堂々の第1位に輝いたから。

「一反木綿」は、民俗学的には鹿児島県の大隅地方に出現したとされる妖怪。一反約10cmほどの白布が夜間どこからか飛来し、人の首に巻きつき窒息させる。とどこからか飛来し、抜群の人気を誇るのは、おそく水木さんによるスマートな造形と、軍団の中で唯一空を飛べるメンバーであり、イザという時に鬼太郎たちを乗せて自在に移動できる、その頼もしさのせいだろう。

足立倫行(あだち・のりゆき) 漫画家・イラストレーター。石川県生まれ、鳥取県育ち。  
 漫画家・イラストレーター。同郷の先輩である水木しげるさんに約2年間密着取材し、『妖怪と歩くドキュメント水木しげる』(1994年新潮文庫)※を刊行。主書に『日本海のイカ』『北里大学病院 24時』『血脈の日本古代史』など。  
 ※今井書店より復刻版発売中  
 WEB=http://migiwan.com/profile  
 facebook=https://www.facebook.com/migiwanroom/

【問】  
公益財団法人  
ふるさと鳥取県定住機構  
鳥取市扇町7  
鳥取フコク生命駅前ビル1階  
0857-24-4740  
http://furusato.tori-info.co.jp/

▼IJUターン就職に関する相談  
0120-307-238  
(8時30分～17時15分※土日・祝日除く)  
▼移住に関する相談  
鳥取県移住定住サポートセンター  
0120-841-558  
(8時30分～17時15分※土日・祝日除く)  
とっとり移住定住ポータルサイト  
http://furusato.tori-info.co.jp/iju

# ワイン造りの夢、 県中部を拠点に開花



【PROFILE】  
◎家族構成／妻  
◎移住前の住まい／京都府京都市  
◎移住時期／2008年  
◎現在の仕事／  
株式会社いむらワイン&カンパニー代表取締役  
(農産物の栽培及び販売、ワイン醸造、ワイン販売)

空き家だった町屋を改修したワイナリーのタンク(写真左)。  
『ワイン蔵』(写真下)は、玉川沿いにあるため、年間を通じて一定の湿度があり、ワインの貯蔵に適している

■ワイン蔵(赤瓦二号館内)  
倉吉市東仲町2583  
090-4908-5686



棚には国産ワインがズラリ。壁にある日本地図には扱うワインの産地が記されている

## 「日本ワイン文化」形成へ

15年には、ブドウ栽培のかたわら、倉吉市内に日本ワイン専門店の『ワイン蔵』をオープンさせた。日本ワインに特化した店は、国内でも珍しい。しかも、西日本を中心にした50種類以上の品ぞろえは、すべて自分の足で採ったワイナリーとの直取引によるものだ。ワンコインで試飲もできるとあって、訪れる客の評判も上々。日本ワインへの関心の高まりを、今村さん自身も肌で感じている。これまでは自身で収穫したブドウ100%使用の自社ワインを、岡山

のワイナリーで委託醸造して販売していたが、今年7月、「鳥取県ワイン特区」の醸造免許を取得。いよいよ9月から『ワイン蔵』の近辺に待望の自社ワイン醸造所『倉吉ワイナリー』を開設することになった。  
「移住して10年、圃場探しから平坦な道ではなかったけれど、課題に直面するたびに、地域の方をはじめ、良い出会いに恵まれてきた。今後は、ワイン造りを志す地元若者たちもアシストし、「日本ワイン文化」を根付かせたい」と今村さん。丹精込め、自ら栽培したブドウでの初仕込みが楽しみだ。



「苦労はしたが人のつながりに助けられ、ようやくここまで来ました」と今村さん

◎ワイン醸造家、農業専門士(倉吉市)◎

今村 憲治さん  
京都府京都市出身

ここ数年、国内で育てた高品質のブドウで醸す「日本ワイン」(\*)のおいしさが、国内外で注目されている。ブドウ栽培から醸造までのオリジナルワイン造りを目指し、10年前、縁もゆかりもないこの土地に1ターンした今村憲治さん。鳥取県中部から「日本ワイン文化」を定着させるべく、奮闘中だ。

## 思い実現へ50歳で決断



自身のブドウ畑で作業をする今村さん(写真提供:今村憲治)

進もうと決意した」と、振り返る。ワイン醸造施設を構えることを最終目標に、まずは鳥取県立農業大学校(倉吉市)で2008年から2年間、果実栽培をゼロから学ぶ。卒業後は、師事した先生の紹介で北栄町内に約60坪の圃場を確保し、12年から本格的にワイン用ブドウの栽培を手がけるようになった。  
圃場は水はけの良い砂畑で、日本の潮風が果実の生育に大切なミネラル分を運ぶ。昼夜の寒暖差と4ヶ月の日照時間は、国内有数のブドウ産地・勝沼地区(山梨県)と同程度という点も、この地を選ぶ決め手になったという。  
店内では500円で試飲も可能。観光客が次々と立ち寄る

※日本ワイン＝国内で栽培されたブドウを100%使用し、国内で醸造されたワイン。ラベルに産地名を付けるには、その地域のブドウを85%以上使用が条件。国税庁が定める定義。

スカイラインGT-R(※)など、  
国産名車のエンジン模型を制作、  
販売する日下エンジニアリング。  
車好きならではのこだわりが詰まった6分の1サイズの  
模型は、熱狂的なマニアの心をつかみ、  
他に例のないビジネスモデルを確立。  
唯一無二の車の楽しみ方を提供している。

※日産自動車の人気スポーツカー



## 車への愛が生んだ唯一無二の逸品

車が大好きでGT-Rにも乗っていた代表の佐々木禎さん。2010年に立ち上げた会社でGT-Rの車体をかたどり、実物のエンブレムを埋め込んだ置物(LED付)を考案した。その完成度の高さに日産自動車もライセンス契約を快諾、11年に発売されると、瞬く間に話題に。車体番号やオーナーの名前も入ることがファンの心をつかんだ。

このうちGT-R専門の情報誌のサイズに合わせたキューブ型の本棚は、鳥根県内の家具専門店と組み、車のシート材を周囲に巻くなどの遊び心が評判を呼んだ。

続いて3Dプリンターを使ったエンジン模型を作ることに。傑作と名高いエンジン「RB26」を選んだが、すでに販売は終了、データも無い。そこで大切に保管していた実物をファンから借り、スキャンしてデータ化した。「せっかくなら世に出たいないスケールで」と、実物の6分の1の大きさを選んだ。

3Dプリンターで原型を作る際は、全体のバランスを見て、作り込

む部分と大きくとらえる部分を決める。型をとって樹脂を流し、パーツを作って手作業で組み立てるが、実物同様の加工をしたり、ザラザラの質感を残したりと、マニアの視点を大事に作り込んだ。

試作品をイベントで展示すると大盛況の人だかりに。15年4月、受注生産が専門誌やインターネットに掲載されると、予想をはるかに超え、1か月で約300個の注文が入った。

その後、他の車種の制作依頼も舞い込み、種類も増えた。新商品を作る前には「作った人やファンと話し、エンジンの歴史や魅力を引き出します」と佐々木さん。海外からの注文もあり、すでに1500個以上を制作したが、現在、注文から受け取りまで2〜3カ月待ち。

名作といわれるエンジンを手のひらの上で存分に眺める至福の時……。その日を待ち望むファンのため、同社では、今日もフル回転の作業が続く。

文/松村亜紀子 写真/山崎登



「時間はかかるがファンの思いに応えるべく、とにかく丁寧に作っていきたい」と佐々木さん

### 日下エンジニアリング株式会社

代表/佐々木 禎  
設立/2010年5月  
資本金/500万円  
〒米子市車尾南1-8-37(1F)  
☎0859-21-7123  
http://kusaka-eng.com/

## 文字の迷宮をゆく

つれづれ書林女子

高校生の頃、奇妙な本を手に入れた。著者は、明治30年開業の「不思議の品専門店、クラフト・エヴィング商会。現在は所在不明の「どこかにいってしまった」商品を、数少ない資料とともに紹介している。

たとえば、大正11年発売の「アストロ燈」はいわば、逆懐

## どこかにあった、どこにもないもの

『どこかにいってしまったものたち』クラフト・エヴィング商会 著(筑摩書房)

中電灯。いつでもどこでも自在に暗闇を出現させることができる。昭和5年発売の『水蜜桃調査猿』はゼンマイ仕掛けの猿が桃の食べごろを判定してくれる優れもの。セピア色に変色したパッケージやレトロな活字が、もうどこにもないものたちの在りし日をお知らせ、私を夢中にさせた。

「不思議」が不思議のまま存在するのが極めて困難な現代。本書を彩る品々と謎の商会の真偽に拘るのは野暮といふものだが、少なくとも、この妙な本が私の本棚に実在することだけは疑うべくもないのである。

文・イラスト/前田環奈



まえた・かな  
鳥取市出身。郡郷堂店主。\*自分が通いたい古本屋、を鳥取に作るために2012年10月に古本屋「郡郷堂」を開店。古本の販売のほか、陶磁器の修理(金継ぎ)も行っている。

【郡郷堂】〒鳥取市吉方町2丁目311  
☎080-2940-2127

## voice

118号の感想から

「とっとりNOW」を今回初めて拝読。全ページカラーで写真も綺麗で、文章も読みやすく、好感を持ちました。鳥取に住んでいながら、大山のことは詳しく知らなかったのですが、巻頭特集の「神と仏の宿る山」で歴史などが初めてわかり、大変興味深かったです。また大山の大献灯、たいまつ行列の写真は見入ってしまうほど美しかったですね。今まで以上に大山に親しみを感じました。

（鳥取県鳥取市 森本裕美）

118号の巻頭特集「神と仏の宿る山」に感動。小さい頃から親しんでいる大山に、改めて思いを寄せました。

（兵庫県神戸市 土井佐枝子）

「ここにこの人」で紹介されていた大野知英さんがデザインされたファッションは一見、奇抜なのになぜか目が離せない。心惹かれました。

（鳥根県西ノ島町 浦田文子）

年齢を重ね、旅行とグルメに関心が高くなり、「鳥取のうま味」を毎回楽しみにしています。見て読むだけで、実際に店に行ったような気分がさせてくれる表現に、いつも感心しています。

（東京都江東区 馬淵克美）

「ざらり匠人」のミシン修理職人の岩垣さん。記事を見て、中学校の時にあった足踏みミシンを思い出しました。「直らない」と言わない誇り」。プロフェッショナルな仕事ぶりに感動しました。

（岡山県岡山市 塩田恭子）

毎回楽しくNOWを読んでいきます。新しくスタートした「花咲くYokai談」が面白かったです。これからもいろいろな妖怪を紹介してください。

（兵庫県赤穂市 廣村典彦）

「大山さんのおかげ」。住んでいる方々の信仰心と謙虚さが伝わってくる響きのいい言葉だと感じました。扉の見開き写真も素晴らしい。地域の方の気持ちがにじみ出ているようで、思わず手を合わせてくなりました。

（新潟県長岡市 西澤忠夫）

倉吉にUターンして6年目です。先日、『とっとりNOW』を図書館で借り、創刊号から全て目を通しました。そして鳥取県は、多くの立派な人を輩出している土地柄だと認識できました。また自然や農作物にも恵まれており、とにかく心豊かに暮らせる場所だと改めて思えました。毎号の発行を楽しみにしています。

（鳥取県倉吉市 牧野美紀子）



GT-Rのエンブレム付のキューブ型本棚。バラ売りで組み合わせが自由にできる。上部は引き出し式の小物入れ

# 読者プレゼント

応募〆切  
2018.  
9/30  
消印有効

## ■ 応募方法

- 下記の項目を記入し、ハガキまたは電子メールでご応募ください。
- ① 希望の商品記号または商品名
  - ② 掲載記事への意見・感想
  - ③ 応募用クイズの答え
  - ④ 住所・氏名・年齢・電話番号
- ※②の感想が次号の「VOICE」に掲載される場合、住所・氏名が明記されることをご了承ください。また商品の当選は、発送をもって発表に代えさせていただきます。

## ■ 応募先

〒680-8570 鳥取市東町1丁目220  
鳥取県広報連絡協議会(鳥取県庁内)  
「とっとりNOW読者プレゼント」係  
メールアドレス: now@kouhouren.jp

※お預かりした個人情報は、プレゼント発送以外の目的に使用することはありません。

## ● 応募用クイズ ●

Q 「天の川」を見つける際に目印となる3つの星の通称は何?空欄の4文字に当てはまる文字をご記入ください。

□ □ 大 □ □

118号のクイズの答えは「**ジャン婦人**」※「ここにこの人」の記事中に正解あり。

**A**



### 「しゃんしゃん」グッズ [3名]

「しゃんしゃん傘踊り」の傘をモチーフにした一筆箋と折り紙のセット。鳥取市の紙雑貨作家OPPO-I(オポポー)の作品。鳥取土産としてもオススメ。

問 ガャラリーショップSORA  
☎ 0857-29-1622

**B**



[5名]

### 境港妖羹(タテ10cm×ヨコ5.2cm 厚さ3.6cm)

漫画「ゲゲゲの鬼太郎」のキャラクター「一反木綿」を描いた羊かん。こしあんを土台に一反木綿をかたどった白あんを乗せ空舞う姿を表現。甘さ控えめ。

問 物産観光センターみなとまち商店街  
☎ 0859-47-3710

**C**



[5名]

### 写真集「魅せられて大山」(河野利晴 著)

秀峰・大山の四季折々の姿をとらえた写真集。写真に添えられたコメントは、長年大山に携わってきた著者の「大山愛」があふれている。

問 鳥取県広報連絡協議会  
☎ 0857-26-7086

**D**



### 日本ワイン [3名]

ワイン蔵(30頁参照)のオーナー自ら栽培したブドウで作った「実結」「伯州」、湯梨浜町の生産者が作る「ハワイワイン」のいずれか。※種類は選べません。

問 ワイン蔵  
☎ 090-4908-5686

**E**



### 星取県マグカップ [3名]

イラストレーター・毛利みきさんデザインのマグカップ。星をつかまえようとする可愛い少女の後ろ姿が印象的。※柄は選べません。

問 コスメティックパティオ プルーム  
☎ 0857-85-0500

**F**



### ポン菓子「PON! BOXミニ6」 [3名]

(40g×3・30g×3)  
無添加にこだわったポン菓子セット。キャラメル、黒糖玄米、プレーン、塩、カレー、ハーブ味の6種類入り。アイスやヨーグルトのトッピングにも。

問 有限会社深澤製菓  
☎ 0857-22-4863

**G**



### 星取県らっきょう (80g×3袋入) [3名]

県産ラッキョウの甘酢漬け。白さが特徴の「砂丘らっきょう」を、輝く星に見立てて「星取県」とコラボしたパッケージに。程よい甘味と酸味がクセになる。

問 泊綜合食品株式会社  
☎ 0857-28-6211

**H**



[5名]

### さんすいしか 山水鹿 すきやき丼 (1人前160g×2箱)

シカ肉を100%使用し、甘辛く味付けしたすき焼きの素。厳選された希少部位のみを使い、レトルパウチ入りで手軽にジビエ料理を味わえる。

問 いなばのジビエ推進協議会  
☎ 080-2948-3404

## Editor's note

□ ■ 編集後記 □

会社帰り、ダッシュで映画館へ。2か月に1度の「お楽しみ、にしていた20代の頃。当時、映画館に女子ひとりで?と、周囲に怪訝そうに言われた。まあ、映画デートもなきにしもあらずだが。はて、誰と一緒にだったか。振り返れば、記憶からほぼ消滅…。なぜ

か。きつとデートのワンシーン。より、「映画のワンシーン」の記憶が勝つのだ。全く…ひどい奴。▼とはいえ、言い訳のようだが、そもそも喜怒哀楽を感じる部分は人それぞれ。だから、映画の感想も完全な共有など有り得ないのだ。案外、ひとりで噛み締めた方が満ち足りるのでは。▼だけど。映画プロデューサーの石塚さん(15頁)とは、気持ちに共有出

来た気がした。彼の伝えたかったメッセージはスクリーンを通して、ずしりと心に響いた。その感動を石塚さんに伝えたことで、鑑賞者同士では味わえない贅沢な共感、共鳴を得たのだ。▼さて、楽しみな次回作も彼の発信する「思い」を受信すべく、映画館にひとりで参ろう。※注:決して人嫌いではありません。映画に集中しただけ。(苦笑) 【Hi】

とっとり  
鳥取県総合情報誌 vol.119  
Now  
2018 Autumn

《企画・編集・発行》鳥取県広報連絡協議会  
〒680-8570 鳥取市東町1丁目220(鳥取県庁内)

《制作》株式会社ジェイ・エス・エス  
〒680-1131 鳥取市馬場233-1 TEL.0857-37-4120

☎ 0857-26-7086

☎ 0857-29-6621

とっとりNOW

検索

http://www.kouhouren.jp/  
2018年9月1日発行 定価309円